

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

#### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	商学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導(院) 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導(専院)
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示) 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

#### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

##### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 各専門分野の履修体系、より具体的には何が学べ、何ができるようになるかを入学時に明示する。	→各専門分野からのヒアリングとその成果を入学時オリエンテーションでの反映。	B	B	B	B	B
2. 他大学院、他研究科との単位互換制度を踏まえて、多様な履修、研究の機会があることを在学生に対して周知する。	→他大学院、他研究科での履修者数の増加。	B	B	B	A	A
3. 履修登録前に授業内容をより詳細に周知する。	→履修登録に際しての指導教員との事前(各学期開始前)面談、およびシラバスの標準化。	C	B	B	B	A
☆						
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

## 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 入学時オリエンテーションでは、履修登録時における注意事項などを中心に履修時に必要な知識を周知している。各専門分野の履修体系や具体的内容については、指導教員の個別履修指導やシラバスを通じて明示される。研究職コースでは、入学出願時に確定した指導教授を委員長とした博士論文指導委員会を設置し、博士論文指導および後期課程進学のために必要とされる「主分野外科目」を指示し、博士論文研究準備計画書を提出させ、その進捗度に応じて定期的に学習指導している。専門学識コースについても、研究演習を通じて指導教授が修士論文に必要な履修科目を指示し、修士論文作成の進捗度に応じて定期的に学習指導をしている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 効果を測定することはできないが、この5年間で各専門分野の履修体系や具体的内容を入学時に明示することについては大きく進捗したと思われる。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 入学者に対する情報提供のみならず、商学研究科への進学希望者に対する情報提供(潜在需要の掘り起こしを含む)も念頭に置いて、商学研究科における学びを包括的・体系的に記述する冊子体ないしウェブページを作成すること。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 他大学や他研究科との単位互換制度については、入学時オリエンテーションや履修案内で在學生に周知している。たとえば、会計分野においては経営戦略研究科と専門科目を共同開講しており、履修の機会を提供・周知している。また、学生の過半数である中国からの留学生に対して、2011年度から日本語教育センターが提供している日本語でのプレゼンテーション、論文作成をサポートする科目の履修を積極的に指導した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 他研究科への履修者は、2009年度から2013年度の5年間で延べ36名であった。また、日本語教育センターが提供するプログラムは2011年度から2013年度の3年間で延べ50名の留学生が履修している。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 必要に応じて適切に他大学院、他研究科の履修が行われており、今後も現状を維持できるように努める。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 履修登録に際して指導教員と事前面談し、個別履修指導を行っている。シラバスについては、大学院の授業は履修者が少なく、履修者のレベルに合わせた教育を行うという理由から、シラバスにおいて授業概要のみが記載されていることがあったが、2012年度からは研究科委員会を通じて、専門科目の履修者に応じた授業内容シラバスが確定した段階で、改訂後のシラバスを公開・周知するよう要請した。2013年度からは、大学の情報システムの変更に合わせて標準化が徹底され、授業目的、到達目標、具体的な授業計画(各回)、成績評価基準などを記載した詳細なシラバスが作成、公開されることとなった。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度からは、標準化された詳細なシラバスが作成、公開されることとなった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 現在制度を定期的・継続的に確認、評価し、制度の維持・改善に努めること。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
備考			☆